



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail : sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

- 「全国教員研修プラットフォームPlantについて「よくある質問」」・・・ p.1
「今年度の研修講座の様子(教科教育部、情報・産業教育部)」・・・ p.2
「同僚と学び合う!!教職員研修会サポートによる研修講座の追体験」・・・ p.3

研修講座も残りわずかとなりました。
暖房も入れていますが、講堂・研修室は大変寒くなっています。
各自で**防寒対策**をお願いいたします。

全国教員研修プラットフォームPlantについて「よくある質問」

令和7年3月末日までPlantの試行期間です。教員向けマニュアル等をご覧ください、各種の確認を行ってください。

よくある質問や注意事項について、以下に記載します。

Q1. Plantにログインできません。(教員向けマニュアルp.1～5)

A1-1. 「IDまたはパスワードが正しくありません」と表示される。

→ID…教員向けマニュアルp.4に記載されています。

パスワード…自身で変更したパスワードを紛失した場合は、Plantログインページ「※パスワード再発行はこちら」から再発行できます。

A1-2. 「認証コードを確認してください」と表示される。

→最新の認証コードを、発行から5分以内に入力してください。(認証コードは登録したメールアドレスに届きます)

Q2. 姓名の変更はできますか。(教員向けマニュアルp.5)

A2. 姓に変更がある場合は可能です。なお、登録されている姓名を変更した場合は、指定研修の履修確認の際のデータ照合、研修時の名簿・名札の作成、学校管理職や教育委員会が確認する受講状況や受講履歴に反映されます。

今年度の研修講座の様子（情報・産業教育部、教科教育部）

工業 基本Ⅲ ～人工知能(AI)技術について考える～

11月8日(金)

最先端技術であるAI技術の理解を深め、また産業用ロボットとの連動運転を体験し、これらを扱う授業づくりについて受講者同士で考えました。実践発表では、長野工業高等学校小西睦生先生より、「協働ロボットを活用した将棋プログラミング」と題し、生徒たちと試行錯誤しながらここまでに至った学びをご発表いただきました。

◆◆講義から学んだこと◆◆

○人工知能をどのように教材とするか、学校の機材でどのように学ぶことができるか理解を深めた。Webを使ったAI学習など活用を広めることができた。

◆◆受講者のふりかえりから◆◆

簡単にAIが体験できるツールのご紹介もいただき、特別な設備等が無くとも触れることができるとわかりました。



将棋をととしてロボットに学習させていくことを経験してみ、画像認証の課題とともに自身のプログラミングに対して知識の不足を実感した。これから必要となるAIについて、またプログラムについて知識を増やし、専門分野と結び付けて考えられるようになりたい。



地域素材の教材化Ⅰ ～埋蔵文化財センターを活用した教材研究～ 7月5日(金)

長野県埋蔵文化財センターの調査研究員による講義や南栗遺跡での演習を通して、県内の文化財の調査、研究、保護の現状を理解し、身近な地域の文化財の教材化について考えを深めました。

調査研究員の講義

埋蔵文化財センターによる発掘調査の結果をもとに、「この出土品から、どんなことが分かるのか」、「住居跡の様子から、なぜ村の様子や変遷が分かるのか」など、文字ではない史料から歴史を読み解く手がかりについて学びました。また、県内各地域の遺跡地図や、埋蔵文化財センターの活用方法が紹介され、身近な地域の文化財を教材化するためのヒントを教えてくださいました。

南栗遺跡での演習

松本市の南栗遺跡を訪れ、遺跡から出土した土器の洗浄や発掘体験を行いました。土器の洗浄では、欠片の手触りや文様の違いを確認しながら、土を落としていきました。発掘体験では、時代によって異なる地層の色を目印に、慎重に壁や地面を削り、歴史の痕跡を探しました。この演習を通して、「子どもたちとどんな学びができそうか」について考え合いました。



受講者のふりかえり

実物を触ったり、体験したりすることは、とてもワクワクします。そして、それが社会科の醍醐味であると思います。子どもたちにも同じようなワクワクを味わってもらいたいと感じました。遺跡地図を見ながら自分の勤めている地域を巡り、地域の歴史をもっと学びたいです。埋蔵文化財センターも活用してみたいです。

授業の中で、土器の欠片や復元物をもとに、「貴族や身分の高い人が使っていたもの、一般の庶民が使っていたものはどれか」を考えたり、「建物の跡地の地面の色がなぜ変わっているのか」と問いかけたりすることで、子どもたちが歴史により一層興味をもてるように地域の文化財を教材化していきたいと思った。

同僚と学び合う!! 教職員研修会サポートによる研修講座の追体験

教職員研修会サポートでは、受講者の先生が学校の研修会を行う際の企画、内容構想、当日のファシリテートなどを専門主事がサポートしています。研修講座における個人の学びを自校の先生方で共有し、つなぎ・広げて子どもたちのために動き出そうとした先生方の様子をお伝えします。

○実践後効果あり! → だから先生方に伝えたい“困りを抱える子どもへのかかわり方”



児童生徒理解と課題への対応 基本Ⅱ

学校から気持ちが離れそうな子どもに向けてどのような言葉をかけるか。研修での学びを帰校後すぐに実践されたお二人の先生。早速子どもに変化が見られたことから、研修で得られた新たな視点や気づきを広めたい、みんなで取り組みたいと考え、研修会サポートを利用して、伝達講習を行いました。困りを抱える子どもとの関わり方に「なるほど」とうなずく先生方の姿、演習では「それいいね」「それ〇〇さんが喜びそう」と学校や地域のリソー

スを生かした、子どもの自己決定を促す言葉がけのアイデアを出し合う姿…。参加された先生方や研修を進めるお二人の先生の熱意もあり、充実した校内研修会となりました。研修会后、取り組みは広がりを見せ、児童理解や実際の対応や支援に生かされているそうです。専門主事は、打合せと補足説明でサポートしました。

○目指すのは子ども自ら学ぶ姿! させるための支援を変えてみたい → だから先生方と考えたい

子どもが自己選択・自己決定をして学ぶ学び方、「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」をみんなで考えてみたいと、教育課程研究協議会で伝達講習を計画し、実行しました。当日公開した4年算数「面積」の授業をもとに、子どもが自己決定をして主体的に学ぶために、どのような場面でのような教材・教具や ICT アプリの活用がされていたかを協議し、さらに工夫できそうな点はあるか考え合いました。

講座の内容から、教師が何をさせるのかという支援から、子どもが学ぶために何を選ぶのかという「学校の当たり前」を変えるきっかけになればと伝達講習を行いました。「これまでの実践を見直すよい機会となった」という意見が多く、どの子も主体的に学べる授業を考えるきっかけとなりました。



通常学級で学びにくさの壁を壊そう!

【実践者のふりかえりから】

UDL の考え方を知り、『自立活動』のねらいを教師側ではなく子どもの立場から考えたり、「この方法で」と教師が与えるのではなく、『オプション』をたくさん用意し、子どもたちが自分の学びに合わせて自己調整したりできることで、どの子も自分から学べる授業になることなど、大きな学びがありました。

○百聞は一見に如かず! → だから仲間とこの感動を共有したい



「生命」領域の単元づくり

生徒たちに実感を伴う学びを広げたいと、教材研究として豚の解剖を行うことで、実際に授業に解剖を取り入れるイメージを持つことをねらい、研修会を企画し、近隣の小中学校から 10 名の理科の先生方が集まりました。

材に触れる、材の魅力を味わうことを大切に、参加者自身が試してみたいことや確かめてみたいことを共有しながら、研修会を進めていく実践者の姿がありました。

【実践者のふりかえりから】

専門的な知識でご指導いただける場面、私たちと同じ目線で材を楽しむ場面があり、とても充実した時間になりました。また、私が甘かった「生徒だったら」の視点でも研修を支えてくださり、ご指導いただけたことは大きな学びになりました。

校内研修で学び合いの文化を築いていくためのきっかけに是非、当センターの「教職員研修会サポート」をご活用ください!! 【詳細は研修講座案内 p86、87 参照】